平成２７・２８・２９年度

新座市教育委員会研究委嘱

研究主題

心ゆたかで笑顔あふれる新開っ子を目指して
～主体的に読む力を育てる国語科授業の創造～

平成28年度研究の歩み

新座市立新開小学校

目次

Ⅰ　研究の概要

研究概要図　・・・・・・・・・1

1　研究主題　・・・・・・・・・2

2　主題設定の理由

3　研究仮説

4　研究の視点

5　目指す児童像とつけたい力　・・・・・・・・・3

6　研究組織　・・・・・・・・・4

7　研究の歩み　・・・・・・・・・5

Ⅱ　研究の内容

1　授業研究部の活動　・・・・・・・・・6

2　調査研究・環境部の活動　・・・・・・・・・8

Ⅲ　研究のまとめ

1　成果　・・・・・・・・・１４

2　課題　・・・・・・・・・１４

◆本校研究の全体構想

〔児童の実態〕

○言語活動に関わる力の不足
・文章を読み取る力
・伝える力
・思考力
・表現力
○主体的に学ぶ姿勢の欠如
○粘り強く考えることが苦手

学校教育目標

かしこい子
心ゆたかな子
たくましい子

〔社会の要請〕

○新学習指導要領を踏まえた言語活動等の充実
※第2期教育振興基本計画（文部科学省）より
○確かな学力と自立する力の育成
※第2期生きる力と絆の埼玉教育プランより

研究主題

心ゆたかで笑顔あふれる新開っ子を目指して
～主体的に読む力を育てる国語科授業の創造～

研究仮説

◇「読むこと」の領域において、児童に身につけさせたい力と児童の実態に即した適切な言語活動を選択し、児童が意欲と見通しをもって学べる学習過程と考えを深められる学習活動の工夫をすることで、主体的に文章を読む力を育てることができるであろう。

研究の視点

1. 単元構想・単元計画の工夫により問題発見・解決を念頭に置いた深い学びを実現する。
2. 見通しをもって学び、自らの学習活動を振り返ることで国語の学習に対する主体性を育てる。
3. 自分の考えを明確にしたり、対話的な学びを取り入れたりすることで、文章を深く読み取る力を育てる。
4. 生きてはたらく国語の力を育てるため、国語の授業で身につけた力を活用する機会を増やす。

目指す児童像とつけたい力

低学年　想像を広げながら楽しんで読書できる子

・順序に沿って内容の大体を読んで理解する力
・場面の様子と登場人物の行動を文章から読み取る力
・豊かに想像しながら読む力

中学年　内容の中心などをとらえながら幅広く読書できる子

・目的に応じ、叙述に即して物語を読み取る力
・段落相互の関係や事実と意見との関係に気をつけて、文章を読み取る力
・文章を読んで考えたことについて聞き合い、ちがいに気づける力
・目的に応じて引用したり要約したりする力

高学年　読書を通して考えを広げたり深めたりできる子

・要旨を的確にとらえ自分の考えを明確にしながら読める力
・登場人物の心情などを深くとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力
・文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする力

Ⅰ　研究の概要

１　研究主題

学校教育目標

かしこい子　　心ゆたかな子　　たくましい子

研究主題

心ゆたかで　笑顔あふれる　新開っ子を目指して

～主体的に読む力を育てる国語科授業の創造～

２　主題設定の理由

学校教育目標を目指してあらためて本校の児童の実態を分析したところ、文章を読み取る力が不足しているという課題が浮かび上がった。読解力は基礎学力の土台となる重要な力であるが、この読解力は読書量と密接な関係にある。豊かな読書生活は児童の基礎学力のみならず、心の豊かさをも育てるものである。つまり、学校教育目標の知育・徳育の二つの側面で、読む力が大きな鍵となるのである。「心豊かで笑顔あふれる新開っ子」は、学ぶことを生き生きと楽しみ充実した学校生活をおくる児童像を表している。すべての教科で求められる児童の思考力・表現力・判断力を高めるとともに、心の豊かさを育てるために、本校では国語の「読解力」に焦点を当てることにした。

国語の授業で身についた読解力が日常の読書や他教科での学習に生かされるためには、児童の学習に対する主体性が求められる。児童が国語学習に対して高い意欲をもち、必要感を実感し、課題意識と見通しをもって取り組むことで、つけたい力がしっかりと身につき、その力が幅広い場面で応用されるようになるはずである。以上の理由から、研究主題を決定し、国語科の研究を進めていくことにした。

３　研究仮説

「読むこと」の領域において、児童に身につけさせたい力と児童の実態に即した適切な言語活動を選択し、児童が意欲と見通しをもって学べる学習過程と考えを深められる学習活動の工夫をすることで、主体的に文章を読む力を育てることができるであろう。

４　研究の視点

(1) 児童の意欲を高める問題解決的な単元づくり

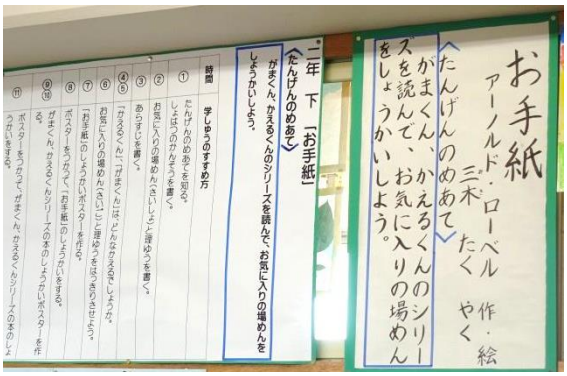
単元構想・単元計画の工夫により問題発見・解決を念頭に置いた深い学びを実現する。

○既習事項を確認し、既習事項と関連づけて本単元で身につけたい力を明示する。

○その学習を通して新たにできるようになることを明示する。

○既習事項を生かして新たな問題を解決する過程を楽しめるような言語活動を設定する。

○児童自身の選択の機会を設け、児童の思いを大切にする。



○教師によるモデルを提示し、学習の具体的なイメージをもたせる。

(2) **見通しをもって学び、自らの学びを振り返る主体的学習**

見通しをもって学び、自らの学習活動を振り返ることで国語の学習に対する主体性を育てる。

○単元の学習計画を教室に掲示し、本時の位置づけを児童自身が把握できるようにする。

○授業の始めに学習課題を板書し、児童に課題意識をもって学習に臨む習慣を身につけさせ、学習を見通せるようにする。

○本時の学習が問題解決にどのように役立つのかを確認する。

○授業の終わりに振り返りの時間を確保し、学習内容を整理して身につけさる。（短時間で効率的・効果的に行う工夫をする。）

○単元の終わりには、できるようになったことを振り返らせ、今後どのような学習に生かせるかを児童自身に考えさせる。

(3) **児童の考えを広げ、深める対話的な学び**

自分の考えを明確にしたり、対話的な学びを取り入れたりすることで、文章を深く読み取る力を育てる。

○自分の考えをもつ時間を確保し、書く活動を積極的に取り入れることで、思考の明確化を図る。

○ペアや小グループの交流場面を設け、自分の考えを表現する機会を全児童に保障する。

○目的に応じて、ペアや小グループなど様々な交流の仕方を工夫して行う。

○交流の内容を学級全体で話し合ったり振り返ったりすることで、考えの広がりと深まり実感させる。

(4) **身についた力の幅広い活用**

生きてはたらく国語の力を育てるため、国語の授業で身につけた力を活用する機会を増やす。

○並行読書や関連図書の紹介などを通して、児童の読書の質・量の向上につなげる。

○「読むこと」の学習を書くことに生かし、書くことへの抵抗感を取りのぞく。

5　目指す児童像とつけたい力

（1）低学年ブロック

目指す児童像　**想像を広げながら楽しんで読書できる子**

◆つけたい力

○順序に沿って内容の大体を読んで理解する力 ○場面の様子と登場人物の行動を文章から読み取る力 ○豊かに想像しながら読む力

（2）中学年ブロック

目指す児童像　**内容の中心などをとらえながら幅広く読書できる子**

◆つけたい力

○段落相互の関係や事実と意見との関係に気をつけて、文章を読み取る力
○目的に応じ、叙述に即して物語を読み取る力
○文章を読んで考えてことについて聞き合い、ちがいに気づける力
○目的に応じて引用したり要約したりする力

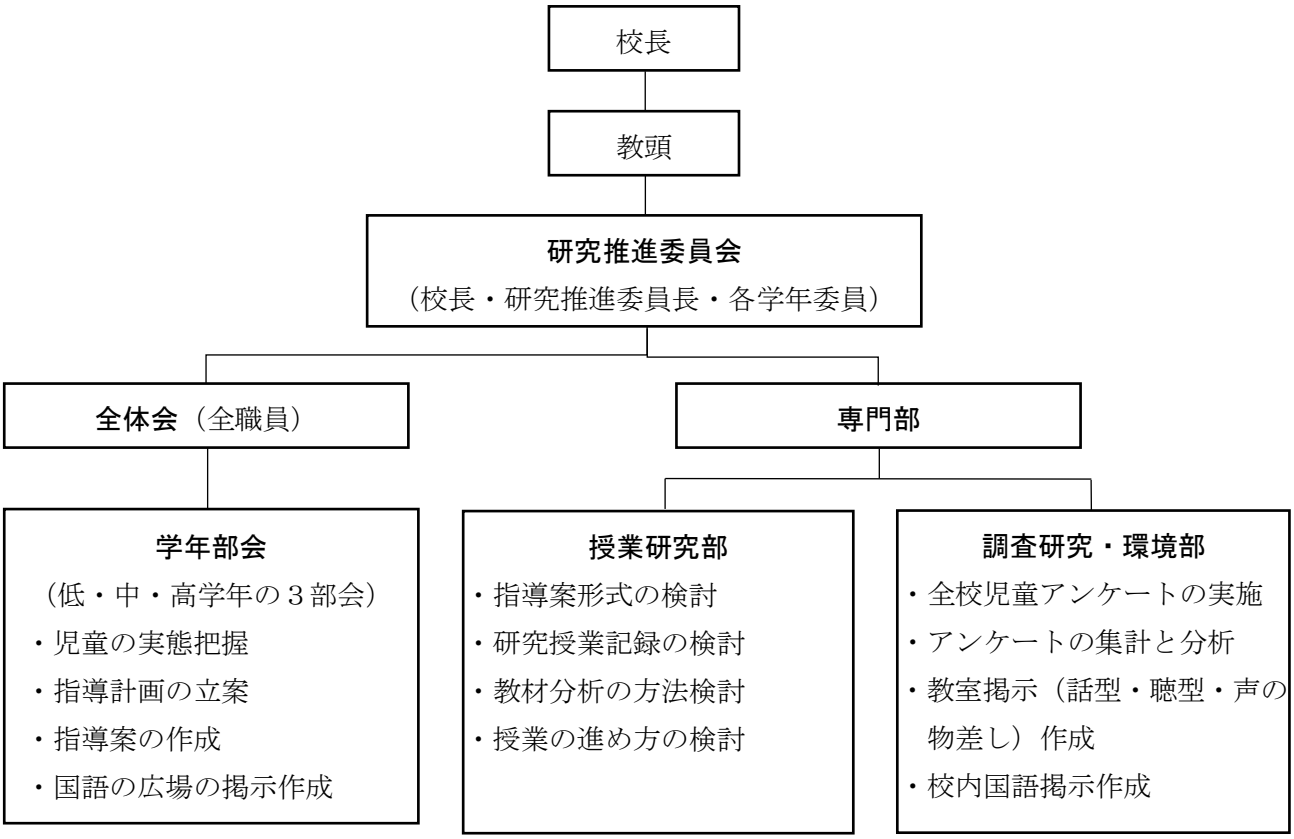
（3）高学年ブロック

目指す児童像　**読書を通して考えを広げたり深めたりできる子**

◆つけたい力

○要旨を的確にとらえ自分の考えを明確にしながら読める力
○登場人物の心情などを深くとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力
○文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする力

６　研究組織



7　研究の歩み

研修日		実施事業	事業内容	付記（開催場所・人員）
4月11日	月	研究推進委員会①	・校内課題研修の方向性について ・研修の進め方について	校長室　10名
4月11日	月	全体研修①	・校内課題研修の方向性について ・研修の進め方について	職員室　23名
4月13日	水	研究推進委員会②	研究概要の確認	校長室　10名
5月12日	木	全体研修②	AED研修	多目的室　23名
5月23日	月	研究推進委員会③	・ブロック協議に向けた研修概要確認	校長室　10名
5月30日	月	全体研修③	・ブロック協議 副題・研究仮設・研究の視点等協議	職員室　23名
6月1日	水	研究推進委員会④	・ブロック協議の集約と原案作成 副題・研究仮設・研究の視点等協議	校長室　10名
6月6日	月	全体研修④	児童理解のための研修	職員室　23名
6月22日	水	研究推進委員会⑤	・研究構造図の検討	校長室　10名
6月27日	月	全体研修⑤	・研究構想についての共通理解 ・専門部会の活動計画確認	職員室　23名
7月21日	木	全体研修⑥	専門部会（調査研究・環境部／授業研究部）	職員室他　23名
		ブロック研修	ＤＶＤ（言語活動の充実を図った「読むこと」の授業作り）視聴	職員室他　23名
		学年研修	・研究授業単元・教材選定 ・単元構想	職員室他　23名
8月19日	金	全体研修⑦	特別支援教育研修 （講師：十文字学園女子大学准教授　吉川先生）	図書室　23名
		全体研修⑧	不審者対応研修 （講師：新座警察署生活安全課長　西山様）	図書室他　23名
8月22日	月	全体研修⑨	・教材研究の方法確認 ・学年ブロック別教材研究	職員室他　23名
8月24日	水	全体研修	国語授業におけるアクティブラーニング （講師：十文字学園女子大学教授　冨山先生）	図書室　23名
8月30日	火	研究推進委員会⑥	・指導案作成進捗状況確認 ・専門部の活動計画確認	校長室　10名
9月5日	月	全体研修⑩	専門部の活動	職員室他　23名
11月10日	木	ブロック研修	高学年ブロックプレ授業（６－２）	６－２　8名
11月21日	月	全体研修⑪	高学年ブロック研究授業（５－１） （指導者：十文字学園女子大学教授　冨山先生）	図書室他　23名
11月24日	木	ブロック研修	低学年ブロックプレ授業（１－２）	１－２　11名
12月5日	月	全体研修⑫	低学年ブロック研究授業（２－１） （指導者：十文字学園女子大学教授　冨山先生）	図書室他　23名
1月6日	金	研究推進委員会⑦	専門部活動報告内容確認	校長室　10名
1月13日	金	研究推進委員会⑧	研究紀要作成スケジュール確認 研究概要原稿読み合わせ	校長室　10名
1月16日	月	全体研修⑬	専門部会（活動のまとめ）	職員室他　23名
1月25日	水	研究推進委員会⑨	研究紀要進捗状況確認	校長室　10名
1月26日	木	ブロック研修	中学年ブロックプレ授業（４－１）	４－１　10名
2月2日	木	全体研修⑭	ブロック別討議（成果と課題のまとめ）	職員室他　23名
2月8日	水	全体研修⑮	中学年ブロック研究授業（３－１） （指導者：十文字学園女子大学教授　冨山先生）	図書室他　23名
2月10日	金	研究推進委員会⑩	研究紀要原稿作成〆切 原稿読み合わせ	校長室　10名
2月13日	月	全体研修⑯	一年間のまとめ 成果と課題　３年目の方向性確認	職員室　23名
2月27日	月	職員作業	研究紀要綴じ込み作業	家庭科室　23名

Ⅱ　研究の内容

1. 新開小学校　国語授業のスタンダード

児童の学習過程

単元の学習に対する高い意欲　　強い目的意識

段階	プロセス	本時の学習活動
導入	つかむ	・課題を知る。 ・本時で学ぶことを知る。 ・学習の流れを確認する。 ・音読をする。 ◆手立て ・学習課題の板書　・既習事項の確認 ・学習計画の掲示　・つけたい力の明示 ・教師によるモデルの提示
展開	考える	・課題に対して自分の考えをもつ。 ・「個」の力で文章と対話する。 ・自分の考えを書く。 ◆手立て ・ワークシートの活用 ・説明文の基本構成理解の指導 ・物語文のあらすじ理解の指導 ・考えを書く時間の確保
	広げる 深める	・ペアやグループで交流する。 ・全体で話し合う。 ・教師と対話する。 ◆手立て ・話し合いの目的にそった交流形態 ・視点や役割の明確化 ・考えを「広げる」視点の確認 ・考えを「深める」視点の確認 ・全文掲示や付箋紙を生かした交流の活性化
終末	振り返る	・深まった考えを書く。 ・課題の達成について自己評価する。 ・学んだことを振り返る。 ◆手立て ・めあてに沿った振り返りの視点の確認 ・自分の考えの整理 ・単元の目標とのつながりの確認

児童の主体的な学び・深い学び

身についた力の幅広い活用

2. 教材研究の方法

教材研究シート

◎資料の魅力や教材的価値はどこにあるか。どのようなことを指導した資料であるか。→教材観

◎当該単元で「つけたい力」は何か。（学習指導要領の指導事項との関連で）→教材観

◎前後の単元のつながりはどうなっているか。→児童観

前学年・前学期までに「つけたい力」について、どの単元でどのような学習を行ってきたか。

本単元以降の学期・学年で、どの単元のどのような学習につながっていくか。

◎指導事項について、児童の実態はどうなっているか。→児童観

◎指導事項を指導するに当たって、どのような言語活動が適しているか。→指導観

※その他の活動として、研究授業の授業記録作成や学習指導案書式の検討を行った。

国語アンケート

1	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	45.7%	35.7%	17.9%	0.7%
中学年	29.8%	37.3%	30.4%	2.5%
高学年	70.1%	24.8%	3.8%	1.3%
学校全体	48.5%	32.5%	17.5%	1.5%
2	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	50.0%	34.3%	11.4%	4.3%
中学年	31.7%	46.6%	21.7%	0.0%
高学年	49.7%	46.5%	3.2%	0.6%
学校全体	43.4%	42.8%	12.2%	1.5%
3	授業のはじめに目標（めあてやねらい）が示されていると思う。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	61.4%	28.6%	9.3%	0.7%
中学年	47.2%	32.9%	16.8%	3.1%
高学年	90.4%	7.6%	1.3%	0.6%
学校全体	66.4%	22.9%	9.2%	1.5%
4	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	25.7%	26.4%	35.7%	12.1%
中学年	29.2%	38.5%	28.0%	4.3%
高学年	41.4%	44.6%	11.5%	2.5%
学校全体	32.3%	36.9%	24.7%	6.1%
5	ノートには学習の目標とまとめを書いていると思う。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	53.6%	24.3%	8.6%	13.6%
中学年	62.7%	25.5%	9.3%	2.5%
高学年	82.2%	15.3%	1.9%	0.6%
学校全体	66.6%	21.6%	6.6%	5.2%
6	感想文や説明文を書くことは難しい。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	30.7%	27.1%	29.3%	12.9%
中学年	22.4%	36.0%	29.2%	12.4%
高学年	34.4%	36.9%	22.9%	5.7%
学校全体	29.0%	33.6%	27.1%	10.3%

7	自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	15.7%	34.3%	28.6%	21.4%
中学年	21.7%	34.8%	26.7%	16.8%
高学年	15.9%	37.6%	34.4%	12.1%
学校全体	17.9%	35.6%	29.9%	16.6%
8	友達との話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	48.6%	29.3%	15.7%	6.4%
中学年	21.7%	44.1%	27.3%	6.8%
高学年	22.9%	55.4%	17.8%	3.8%
学校全体	30.3%	43.4%	20.5%	5.7%
9	国語の勉強は好きだ。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	48.6%	32.1%	13.6%	5.7%
中学年	47.2%	36.6%	13.0%	3.1%
高学年	17.8%	45.9%	27.4%	8.9%
学校全体	37.6%	38.4%	18.1%	5.9%
10	国語の勉強は大切だ。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	75.7%	17.9%	5.0%	1.4%
中学年	72.0%	24.2%	3.7%	0.0%
高学年	80.3%	15.9%	1.9%	1.9%
学校全体	76.0%	19.4%	3.5%	1.1%
11	国語の授業の内容はよく分かる。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	42.9%	45.0%	9.3%	2.9%
中学年	44.7%	42.2%	12.4%	0.6%
高学年	42.0%	48.4%	7.6%	1.9%
学校全体	43.2%	45.2%	9.8%	1.7%
12	読書は好きだ。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	62.1%	25.0%	10.0%	2.9%
中学年	68.3%	21.7%	7.5%	2.5%
高学年	49.0%	26.1%	15.9%	8.9%
学校全体	59.8%	24.2%	11.1%	4.8%
13	国語の授業で学習したことは将来、社会の役に立つと思う。			
ブロック	そう思う	どちらかと言えば そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
低学年	72.9%	19.3%	5.7%	2.1%
中学年	84.5%	12.4%	2.5%	0.6%
高学年	69.4%	26.1%	3.2%	1.3%
学校全体	75.8%	19.2%	3.7%	1.3%

○アンケート結果に関する考察

・質問項目１について

学年により回答に大きなばらつきがある。ペアやグループ交流を生かし、発表の機会を増やしていく必要がある。

・質問項目２について

考えを広げたり深めたりするために話し合い活動を積極的に授業に位置づけてきたことが数値に表れている。

・質問項目３について

今年度、授業研究部が本校の授業スタイルを打ち出した。その４つのステージの第一段階に授業のめあてを明示することを位置づけたが、全校で定着させ始めた段階である。来年度は「そう思う」と答える児童を 100%に近づけていきたい項目である。

・質問項目４について

質問項目３と同様に本校の授業スタイル４つのステージに明確に位置づけたのが「振り返り」である。しかし、項目３以上に授業での位置づけが不十分である。毎時の授業において短時間で確実に行える方法を確立し、質問項目３と同様に 100%に近づけていきたい項目である。

・質問項目５について

質問項目３・４と同義の質問項目であるが、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」という児童が全校で 90%近くに達している。学習内容をしっかりとノートにまとめることができていると考えられる。一方で質問項目３・４がやや低くなっていることから、ノートには書いているものの、児童自身が学習の課題や成果をしっかりとつかめていないと考えられる。学習の主体性を高めることが課題である。

・質問項目６・７について

「書くこと」及び「自分の考えを説明すること」に対して、抵抗感がある児童は全校の 60%程度いる。低・中・高の児童に傾向の差はあまりないため、低学年から継続的にこれらの活動に対する抵抗感を取り除く工夫が必要である。

・質問項目８について

低学年において、話し合いが役立っていると実感している児童の割合が高い。考えを広げたり深めたりするために話し合いが生きていることが分かる。一方で中、高では話し合いの効果を感じる児童が減っていく傾向が見られる。話し合い活動が何のために行われているのか、目的を明確にしてその効果を児童自身が実感できるようにしていきたい。

・質問項目９について

低・中学年では国語好きの児童が８割を超えているが、高学年では７割を切ってしまっている。さらに「そう思う」という強い肯定層は低・中学年では 50%近くいるのに対して、高学年では 20%以下になってしまっている。高学年では、児童の意欲を高める単元づくりの工夫がより一層求められる。

・質問項目１０について

国語の学習に対する必要性を感じていない児童は全校で 5%以下であり、学校生活において国語の学習が必要不可欠であるという認識はもたせることができている。

・質問項目１１について

全校で 90%程度の授業が授業内容をおおむね理解していると肯定的にとらえており、高学年で低下しやすい数値が全く下がっていない。児童の実態に合った授業を行うことができていると考えられる。

・質問項目１２について

全校で読書嫌いが 15%以上いることは大きな課題である。特に高学年では 25%近くに達しており、低学年でも 10%を超えてしまっている。日常の中に読書習慣を確立し、読書の楽しさを実感できるようにしていくことが必要である。

・質問項目１３について

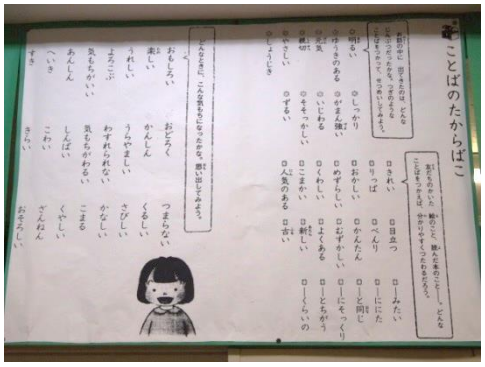
質問項目１０と比べると、中学年では「そう思う」児童が増加している。国語の学習が将来どのような場面で役立つのかを中学年では十分に実感させることができていると考えられる。一方高学年では質問項目１０よりも「そう思う」児童が減少している。国語の学習で身につけた力が将来どのように役立つのかに疑問を抱いている児童が増えたと考えられる。国語の学習で身につけた力が将来具体的にどような形で役立つのかを示していく必要がある。

校内環境の整備

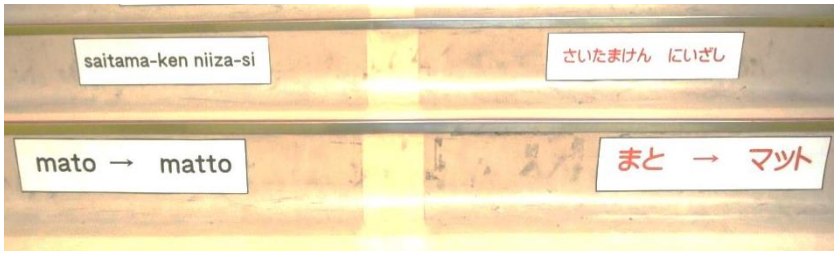
各教室掲示（全校統一）

・声のものさし
・発表のしかた
・はなしかた名人
・ききかた名人

言葉のたから箱



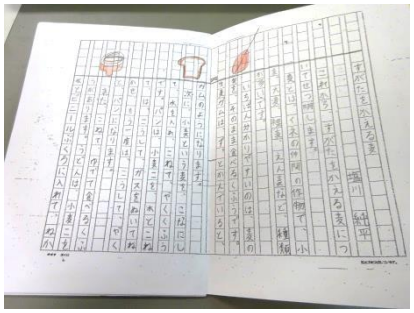
階段

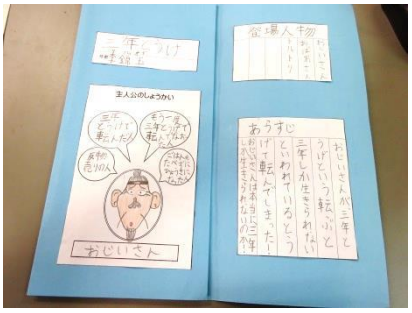


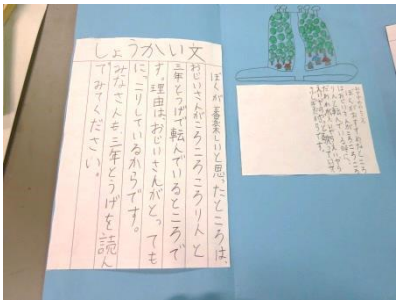
学年掲示板

職員室前

各学年の取り組み







Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

(1) 児童の成長について

・国語の学習に楽しく取り組むようになっている。
・学習課題に向かって流れに沿って学習を進める力が育ってきた。
・中央図書館の団体貸し出しなどを有効活用したことで、読書量が増えた。
・並行読書や本の紹介といった言語活動を行うことで読書量が増え、読書の幅が広がった。
・問題解決的な学習の進め方が身についてきた。
・説明文の読み取りが書く力の育成に結びついている。
・文章中から根拠を見つけて意見を述べられるようになってきた。
・目的に応じて自分で主体的に相手を変えたりしながら、交流を行い読みを深める力が育った。
・初発の感想で出る疑問の質が向上した。

(2) 教師の指導法改善について

・問題解決的な単元作りや学習の進め方について、アウトラインがつかめた。
・目的に合わせた交流のさせ方について、様々な手立てを知り実践することができた。
・学習の振り返りのさせ方について、効果的な方法を学ぶことができた。
・話し合いを積極的に取り入れることで、児童の思考を活性化させることができた。

(3) 研究の進展について

・研究仮説、４つの視点、さらに目指す児童像とつけたい力について、研究の柱を整理し、明確にたてることができた。
・児童の実態調査をもとに、新たな課題を確認することができた。
・教材研究と指導案作成の方法について、基本的な流れを整理し統一することができた。
・児童の学習の進め方について、新開小のスタンダードを形にすることができた。
・来年度に向けて、全職員が見通しをもつことができた。

２　課題

・「読む力」をどう定義づけ、どのように評価し指導に生かしていくのかを整理する必要がある。
・読書量は増えているが、まだ読書嫌いの児童の割合が高い。
・板書のあり方について、研究の余地がある。
・音読指導について検討し、全校で系統的に行う必要がある。
・振り返りが十分に行えていない。毎時に効率的に行う方法を全校で確立していく必要がある。
・研究の４つの視点について、全学年の手立てを整理し、６年間を通して系統的に指導できるようにしていく必要がある。
・アクティブラーニングで活性化した児童の学習を、「つけたい力」につなげ、学習の成果としてまとめていく方法について研究を深めていきたい。

ご指導いただいた先生方

十文字学園女子大学人間生活学部児童教育学科教授　　冨山　哲也　先生

研究に携わった本校教職員

【平成 28 年度】◎研究推進委員長　〇研究推進委員

校長：弘中　幸伸　　教頭：岡野　信幸

〇高須　明	中村　憲子	〇村元　勇樹	〇佐藤　　創
吉川　裕起	山口　　薫	佐々木賢徳	俵谷　佳菜
〇塚田　冬華	〇中谷　千秋	大清水拓也	隈部　智子
〇村上　辰徳	◎大内　敦史	下谷　宏美	〇近藤　祐子
篠場　　舞	金子　寛子	渡邊瑠璃子	中嶋麻由花
篠﨑　恒彰	星野　優子	見世　瑛子	占部　理恵
大久保公美	下田アルリン	井上　翔太	高口あかね